

インフルエンザウイルス

秋～春にかけて流行する代表的な疾患です。急な発熱、のどの痛み、悪寒や関節痛が特徴です。発熱は抗インフルエンザ薬を使用しなければ1週間程度続くことがあります。発熱後まもなくは抗原検査をしても陽性になりませんので、発熱後12時間以上経ってから病院を受診するとよいでしょう。熱性痙攣や脳炎を発症するリスクがありますので、ワクチンで重症化を予防しましょう。基本的には自然に治癒をする病気ですので、必ずしも抗インフルエンザ薬は必要ありません。

RSウイルス

秋～春にかけて流行する疾患でしたが、コロナ禍以降は一年中みられるようになりました。RSウイルスに感染すると、1週間程度持続する発熱、咳、鼻汁や喘息発作の様な症状（喘鳴）が出現します。特別な治療はなく、いわゆる対症療法が中心です。乳児に感染すると重症化することがあるため、抗原検査の保険適応は1歳未満のお子さんに限定されています。

ノロウイルス

ノロウイルスに感染すると、発熱や腹痛、嘔吐、下痢といった症状が現れます。これらはほかの細菌やウイルスに起因する胃腸炎と症状の現れ方が同じであるため、病状だけでは病原体を特定することは難しく、確定診断には検査が必要となります。しかし、多くの病院では、検査による確定診断は行わず、患者の症状や周囲の感染状況からノロウイルス感染症と推定し、治療を行うのが一般的です。というのも、現段階ではノロウイルスに対する抗ウイルス剤がないため、ノロウイルスが病原体であると確定したからといって、治療法が変わるわけではありません。抗原検査の感度は70%程度と低いため、保険適応となる3歳未満の方で、医師が必要と判断した方は検査を行うことがあります。

新しいインフルエンザワクチン

今年から、鼻腔内に噴霧するタイプの弱毒生インフルエンザワクチンである「フルミスト」が国内で販売されます。海外では20年以上前から使われているワクチンで実績があります。

（特徴）

- ✓痛くない鼻に噴霧するタイプの生ワクチン
- ✓2～18歳が対象
- ✓妊婦、授乳婦、免疫不全がある人、喘息がある人、ゼラチンのアレルギーがある人などは対象外です。
- ✓1シーズン1回の接種です
- ✓接種後、鼻水などの風邪症状がでることも
- ✓接種後、インフルエンザ抗原検査が陽性になることも

RSウイルスワクチン

今年から、乳児のRSウイルス感染を予防する目的で、妊婦さんにRSウイルスワクチンの接種が開始されました。RSウイルスは、生後数か月までの乳児に感染した場合には重症化しやすく、細気管支炎や肺炎を引き起こし、入院や死亡に至る場合もあります。ほぼすべて乳幼児が2歳までにRSウイルスに感染します。現在、RSウイルス感染症の治療を目的として乳幼児に使用可能な医薬品はありません。

（特徴）

- ✓妊娠24～36週の妊婦に接種
- ✓母親の抗体が新生児に移行し、RSウイルス感染を予防します。
- ✓母親の抗体がなくなる生後6か月まで効果が持続

